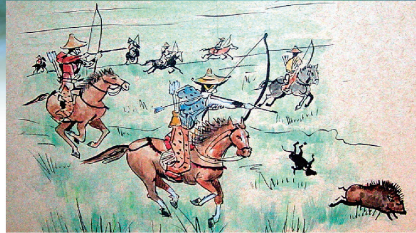




# 日本一の水源の郷をめざして——道志村



## 源頼朝伝説 2

### 的様伝説

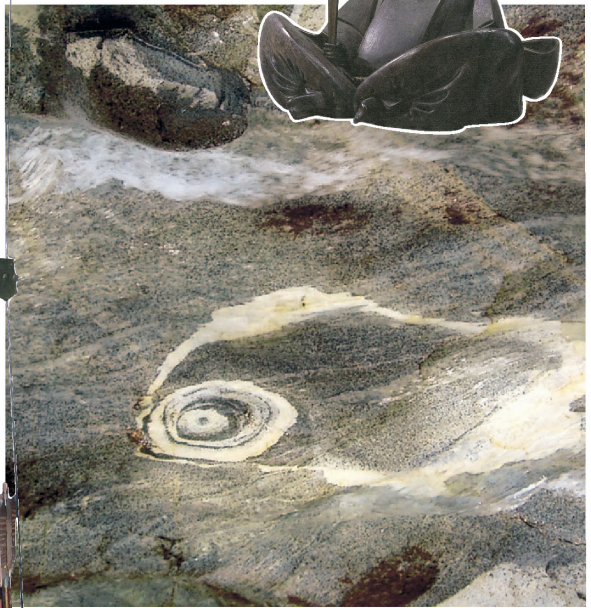
頼朝は、道志川の戸渡に大きなやぐらを組み建てました。標的までの距離は、一里余（四キロ）もありました。頼朝は、その標的を豪弓で射ようとにらんだが、巨木が繁って標的が見えなかった。頼朝は大声で、「樫と椿が暗かろうぞ」と怒りをこめてにらんだ。將軍頼朝の威光を恐れられたのか、木々はたちどころに枯れ果てました。頼朝は「さも有らん」と豪弓に矢をつがえて放ったところ、標的に見事命中した。その標的が倒れると、川底の岩にの跡が残った。以後これを村人は「的様」と呼ぶようになりました。



ある年、長い日照りが続き、作物が全滅状態になったとき、村人の一人が的様を洗い清めたところ、雨が降り出しました。その後、五穀豊穡と雨乞いの神様として「的様」に石の祠が建てられました。

秘境といわれてきた道志村には、数多くの伝説があります。その中でも12世紀後半鎌倉幕府を開いた、源頼朝の武勇をたたえる逸話も、たくさん語り伝えられています。それを裏付ける伝説石も多くあります。

伝源頼朝座像（東京国立博物館）



### たくさんある頼朝伝説と石

**試し切り石（ためしきりいし）**  
巻狩りの帰り道志川の上流の長又の地で武道錬成に時間を費やしました。頼朝は、所持していた名刀を研ぎすまし、近くにあった石を斬り付けたところ一枚岩は見事に二つに切り裂かれたといわれています。

**頼朝の足型石（あしがたいし）**  
大室指まで馬で下ったが、ここで草鞋の紐がゆるんだので馬を止めて岩に足をかけて紐を締めた。このとき足の跡が残ったとされています。

**頼朝の豪弓（ごうきゆう）**  
頼朝は長又の矢頭山からも弓を引いたが、その矢はなんと4km先まで届いた。その地をの矢先と呼ぶようになりました。

道志村子ども農山漁村地域協議会 道志村観光協会 〒402-0211 山梨県南都留郡道志村6894-4  
TEL 0554-52-1414 FAX 0554-52-1415 URL <http://doshi-kanko.com>

このリーフレットは、農山漁村地域力発掘支援モデル事業により農林水産省から助成を受けて作成しています。